



学校だより

子どもの未来をみんなで創る

令和4年 4月号

神奈川県立相模原中央支援学校

～新しい学びに向けて～令和4年度が始まりました。感染症対策を続けながら、安心して安全な学校生活を維持できるよう努力していきます。今年度も引き続き御理解と御協力をお願いいたします。

さて、令和4年3月末に神奈川県教育委員会より、『かながわ特別支援教育推進指針』が出されました。今後概ね10年間を見通した特別支援教育の方向性が示されました。具体的には「特別支援学校の整備」や「医療的ケアの充実」「市町村との連携」の方向性を示しています。特に特別支援学校における医療的ケアの充実について、その課題と今後の施策が示されました。その中には、通学支援の試行実施についても言及されています。これまでなかなか取り組めなかった部分です。順次取り組んでいきたいと思えます。



4月5日には始業式を校内放送（訪問教育はご家庭）で、各教室にて行いました。入学式では、令和4年度は、幼稚部1名、小学部13名、中学部16名、高等部38名の新入生を迎えて、合計255名の幼児児童生徒と約180名の職員でスタートです。今年度も感染症対策を含め見通しも持てない状況ですが、できるだけ伝わりやすい情報発信を心がけます。

よろしくお願ひします。

校長 鈴木 善之（すずき よしゆき）

はじめまして よろしくお願ひします。

この4月より、鶴見養護学校より異動してまいりました教頭の石丸です。どうぞよろしくお願ひいたします。

本校の最寄り駅「淵野辺」に降りた時、電車の発車音楽が、「♪銀河鉄道999」だったことに心が躍りました。これは近くにJAXAがあることに由来するのだと思えますが、毎日銀河鉄道に乗っていると思うと、なんだかとてもワクワクします。また、本校をはじめ、周囲には小学校・中学校・高校・大学等もあり、「宇宙」「未来」「活気」「若さ」「未知の可能性」などのワードを連想させる、エネルギーあふれる街だと感じています。

先日、聴覚部門小学部の体育「タグラグビー」を見学することができました。腰に巻いたベルトについているひもを取り合う「しっぽとり鬼ごっこ」のようなゲームです。友達がケガしないように、お互いに思いやりを持って生き生きと取り組んでいる子どもたちの姿を見て、とても嬉しくなりました。最近はオンライン会議ができるようになるなど、世の中はとても便利にはなりましたが、直接会って、感じて、確かめることで得られる体験は、子供たちの心身の成長に本当に必要なことだと思えます。今は新型コロナウイルスの終息に、見通しがつきませんが、これからも学校は、安全安心を第一に、できることを最大限に探り、工夫をしながら、教育活動を継続していきます。保護者の皆様には御理解御協力いただくことが多々あると思えますが、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

教頭 石丸 葉子（いしまる ようこ）